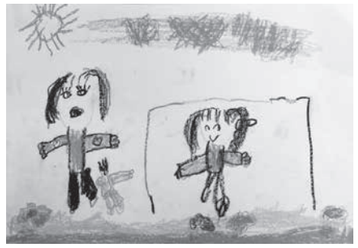
人権啓発標語　「見つめよう　今までの自分　これからの自分」　　菊陽中学校　２年　西本　拓真(現在３年生)

「逆上がりできたよ」

武蔵ヶ丘第一保育園　山下　心望(５歳)



「公園に行ったよ」

逆上がりができてうれしいな

ばぁばんちの近くの公園でばぁばに鉄棒をして見せたよ。

逆上がりしたら、ばぁばが「すごい」って言った。

ママは横で見よった。鉄棒をした後滑り台もすべったよ。

あったかくて楽しかった。

（先生より）４歳の頃から鉄棒の前回りや逆上がりを何回も練習していた心望さん。逆上がりができた時は保育園でもうれしくて何回もして見せてくれました。今は、友だちとしっぽ取り鬼ごっこに夢中で毎日楽しく遊んでいます。

私たちの町の相談パートナー　人権擁護委員

6月1日は 人権擁護委員の日

６月１日は「人権擁護委員の日」です。なぜこの日なのか、どんな思いで活動しているのかを紹介します。６月１日は人権擁護委員法が施行された日です。日本が戦後新しく生まれ変わったとき、国民の基本的人権の擁護と人権尊重思想の普及・高揚が強く求められ、基本的人権の尊重を基調とした日本国憲法が制定されました。このような背景のもとに、1948年(昭和23年)人権擁護委員制度が設けられ翌1949年(昭和24年)６月１日に人権擁護委員法が施行されました。これにより地域住民の中にあって国民の基本的人権を擁護する機関として人権擁護委員制度が誕生しました。そこで、６月１日が「人権擁護委員の日」となっています。

この間、人権尊重思想の普及・高揚のため人権擁護活動の積極的な取り組みがなされてきました。しかし、いまだに、児童虐待、インターネット上のデマや偏見・差別的取り扱いを助長誘発する投稿、特定の民族や国籍の人々を排斥する言動など、生命・身体の安全に関わる事象や不当な差別などの人権侵害が存在しています。

菊陽中部小での人権の花運動

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて民族・国籍の違いや障がいの有無など各人が持つ様々な違いを豊かさに変えて誰もが安心して生活することのできるユニバーサルな社会を築き、大会後も財産として継承しなければなりません。

また、2018年(平成30年)は世界人権宣言が国連で採択されてから70年の節目の年でもあります。そこで、人権擁護委員連合会は今年度の啓発重点目標を《世界人権宣言70周年》「みんなで築こう人権の世紀～考えよう相手の気持ち未来へつなげよう違いを認め合う心～」と定め積極的な啓発活動を展開しています。

菊陽町には町長から推薦され法務大臣から委嘱を受けた次の人権擁護委員がいます

(2018年(平成30年)６月１日現在)

名　前	行政区	名　前	行政区	名　前	行政区	名　前	行政区
上村　隆一	馬 場 楠	鬼塚　成子	三 里 木	片山　修一	下　　原	平野　葉子	上津久礼
衛藤美直子	下　　原	堀川　妙子	杉 並 台	春野　宗敏	新　　町	別府　逸郎	沖　　野

学校だより

菊陽中部小学校

はきはき、にこにこ、こつこつ

菊陽中部小学校(髙本浩校長、児童数875人)は、「はきはき(確かな学力の育成)、にこにこ(豊かな心の育成)、こつこつ(たくましい心身の育成)」を教育目標に掲げ、人権教育を土台とした地域と共にある学校づくりを進めています。毎年、学習支援ボランティアやお話宅急便、ＰＴＡ会長ＯＢ会など様々な地域の人々に支えられて活動しています。日々の学校生活では児童会活動が盛んで「あいさつがとてもよくなった」と地域の方々からお褒めの言葉をいただいています。これからも「自分が好き」「友達が好き」「中部小が大好き」な子どもたちを地域とともに育てていきます。

優しい声と温かい言葉かけのお話宅急便で、楽しい本の世界へ導かれていく子どもたち

きくよう文芸

菊陽句会報

菜の花や猫の跳び越す竹の垣　田島　三閒
花莚ひとひら浮かぶコップ酒　宮川ユキエ
花陰に憩へる午後のユニホーム　紫藤　祥子
野火猛り煙は阿蘇を囲みたる　曽我　育代
石楠花や奥山秘する庭明り　曽我トモ子
踏みさうになりてよろける犬ふぐり　米山るみ子
行幸坂飛花浴び歩く至福かな　吉田　幸子
不穏なる一陣の風春嵐　木村　信子
種子芋を揃へて夕べ湿布貼る　志賀キヨ子

永住や青の保険証春動く　緒方チエ子
夏近し童いつしか俺という　財津　早雪
蝶のごとネット這うや豆の花　原野レイ子
満天星や子猫の首につけたきも　寺尾千代子
桜満開綿菓子のごとふんはりと　高橋　孝子
菜の花や月の光ですっきりと　福田　貴子
試練越え大樹とならん芽吹きかな　北川しんじ
ふはふはの綿毛なるかな雀の子　田中　亜古
句を案ず花の盛りの日々を病み　佐藤　澄世

短歌会

春野菜安値続きで売れ残るレタスは一個八十円だが　梅田　國雄
燃えつきて落ちる夕日か光なき火球となりて山の端に消ゆ　河北　幸一
雨に濡れ木々の若芽は鮮やかにまぶしきまでに緑増しゆく　佐藤せい子
予期せざる寒の戻りに牡丹花身を守るべく花びらを閉ず　中村トシエ
夕暮れの駅前通りは滞る車の尾灯の光連なる　松本　東亜